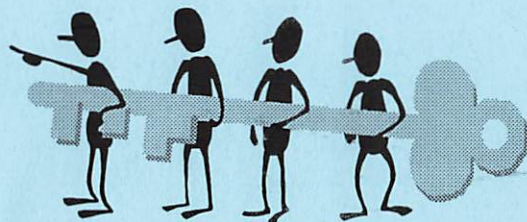




1998年度卒業記念

どこでもドアのかぎ 3
(文庫・新書限定バージョン)





ほんものの本の中には、たくさんのものが詰まっています。

ほんものの本は、知識や理解を与えてくれるだけでなく、夢や、冒険や、驚きや、発見や、謎解きの楽しさや、感動や・・・とてもここには並べきれないほどの、数々の贈り物を私たちに与えてくれます。ほんものの本は、たとえ手の上に乗るほど小さくても、一つの世界を、一つの宇宙を持っています。

そういう本との出会いは、幸せなできごとの一つですが、あふれるほどの本がある中で、ちゃんと出会うためにはどうすればよいのでしょうか。手当たりしだい、読めるかぎりの本を読みますか？幸運に恵まれるよう祈りますか？それも結構、でももう一つ手段がありました。出会ったことのある人に聞いてみましょう。

そこで、県短生協教職員委員会が、皆さんに代わって、教職員の方々にお聞きしてみたら、ごらんの通り、色とりどりの本が集まりました。57冊の本が、57の世界がここにあります。

そして、本の表紙はその世界に通じる扉なので、扉を開ければ、あなたはそのまま別世界に旅立てるのです。そう、まるで「どこでもドア」のように。

それでは、あなたの手で開かれるのを待っているたくさんの扉たちをご紹介します。

1999年3月／県短生協教職員委員会



目次

板垣 俊一	(国際教養)	1
笠原 賀子	(食物栄養)	2
石川 伊織	(国際教養)	3
黒田 俊郎	(国際教養)	8
熊谷 明泰	(国際教養)	9
柳町 裕子	(国際教養)	10
フランク・ドールトン	(英文)	12
波田野 節子	(国際教養)	13
中澤 孝之	(国際教養)	14
後藤 岩奈	(国際教養)	15
村屋 勲夫	(国際教養)	16
若月 章	(国際教養)	17
植木 信一	(生活福祉)	18
水上 則子	(国際教養)	19
岡村 仁一	(英文)	20
木佐木 哲朗	(国際教養)	21
姉齒 暁	(生活福祉)	22
福嶋 秩子	(英文)	24
本間 善夫	(生活科学)	26
原野 明子	(幼児教育)	29
高久 由美	(国際教養)	31
坂口 淳	(生活科学)	32
渡辺 淑子	(国際教養)	33
石栗 彩子	(英文)	34
大橋 儀隆	(英文)	36
太田 優子	(食物栄養)	37

国際教養

板垣俊一

こども風土記・母の手鞠歌

著者 板垣俊一
監修 中野公

柳田国男著

岩波文庫

この本は、50年前の疎開学童の読み物としてかかれたものだが、現代社会が忘れ去ってしまった日本の民俗社会が描かれている。20世紀の終わりにあたって、この100年の我々の精神生活の急激な変貌がはたして本当に幸せな方法へ向かっているのだろうか。この本の内容は、若い人々にはどこの国の事柄だろうと不思議に感じるかも知れない。しかし、その時代の落差を感じることで、今を考える参考としてほしい。

食物栄養

笠原賀子

理科系の作文技術

木下是雄著

中公新書

間違いなく相手に通じさせるために、論理的な順序に従って、明快・簡潔に表現する技術を身につけよう。

理系に限らず、文系の人たちにも新鮮な刺激を与えてくれるが、とくに、専攻科食物栄養専攻の学生には必読の1冊である！

国際教養

石川伊織

全国アホ・バカ分布考

松本修著

新潮文庫

TVの「探偵！ ナイトスクープ」で放送された日本全国のアホ・バカ表現の分布を調べる研究。これを調べたのが、言語学には素人だった担当ディレクターだというのがすごい。元になっている学説は柳田国男の『蝸牛考』（岩波文庫）だが、これを敷衍してアホ・バカ全国分布図を作っていく過程がおもしろい。

時の娘

ジョセフィン・テイ著

ハヤカワ文庫

イギリス史に悪名高いリチャード三世は本当に残虐非道な悪王だったのか？ シェイクスピアもネタ本に使ったトマス・モアの『リチャード三世伝』はどういう意図で書かれたのか？ なその真相に迫る本書は、しかし推理小説なのでした。しかも世紀の大傑作！

怒涛の虫

西原理恵子著

双葉文庫

活字は読むな、読むなら信じるな。西原先生のお言葉は実に真実です。本には嘘も書いてあるのだから、たとえ大先生の本でも鵜呑みにしてはいけません。

コーヒーハウス物語

ハンス=ヨアヒム・シユルツェ著

洋泉社

ハードカバーなんだけれど、サイズは新書なので許して！で、大作曲家バッハの時代はウィーンから始まってヨーロッパ中にコーヒーとコーヒーハウスが広まる時代でもありました。バッハがチンドン屋さんを買って出て宣伝をした喫茶店の話などなど。コーヒーについては他にも、『カフェ』（渡辺淳・丸善ライブラリー）・『コーヒーが廻り世界史が廻る』（臼井隆一郎・中公新書）などがあります。なぜイギリスではコーヒーではなくて紅茶が広まったのかについては『茶の世界史』（角山栄・中公新書）があります。

道楽科学者列伝

小山慶太著

中公新書

科学史に名前の残る 19 世紀までの科学者の大半が大学の外で研究をしていた素人だった、と言ったらみんな驚くでしょう。彼らは趣味で道楽に科学をしてたのです。もちろんお金持ちでなくてはできませんがね。科学はそれだけを突き詰めると科学信仰に墜してしまいます。科学者の多くがこの罠にはまっています。近代科学の歴史を振り返ると、20 世紀の科学の抱え込んだ問題点が良くわかります。

コペルニクス革命

トーマス・クーン著

講談社学術文庫

科学史を振り返るといえばやはりこの本は大切でしょう。クーンの提出した「科学革命」という概念の妥当性に最近疑問が提出されていますが、この動きを理解するためにもやはり原典は必読。さらに言うなら、岩波文庫にはコペルニクスの『天体の回転について』の抜粋もガリレオの『新科学対話（上下）』『天文対話（上下）』も、それから、解説付きでアインシュタインの『相対性理論』も収められています。

三酔人経綸問答

中江兆民著

岩波文庫

自由民権運動の理論家として名高い中江兆民なんですが、この人、日本で初めてルソーの『社会契約論』を翻訳した人なんです。しかし、自著の『三酔人経綸問答』を読む限りでは、兆民はまるでルソーを理解できなかったらしいのです。最近の日本の防衛をめぐる議論などとも関わってきますので、桑原先生の訳した『社会契約論』（岩波文庫）と比べながら読むと良いです。

恋する女たち

氷室冴子著

集英社コバルト文庫

恐らくは氷室冴子の出世作でしょう。恋愛のせつなさが良くわかります。これ以後、だんだんと作品がつまらなくなっていくのが残念なのですが……

貨幣とは何だろうか

今村仁司著

ちくま新書

貨幣が経済社会の中でどう機能するのは経済学が教えてくれます。しかし、では貨幣とは何か？ それは価値とは何かと問うことと同じです。けれども、これについては経済学は応えてくれません。経済学にとっては貨幣とは自明の前提なのです。で、貨幣とは何なのでしょう？ これを問い始めると、自明なものというのが如何に不可解なものであるのかがわかってきます。さて、それがわかると楽しいか、それとも苦痛か？

国際教養

黒田俊郎

パリ／ボナバルト街

海老坂 武著

ちくま文庫

たとえば、ロンドンーパリーローマの旅程でヨーロッパに卒業旅行に行ってきた学生に、帰ってから話を聞くと、たいがいパリはほろくそである。フランス人は冷たくて最悪だし、パリの町は薄汚れていて、どこを見ても工事ばかり。それにシャワーのお湯だってちゃんとでないだから……。たしかに彼女たちの言うことは一理も二理もあるし、本当にそうだと思うことだってある。けどやっぱり、パリにだって魅力はあるのである。そんな時、私は、相手の学生が寛大で心の広い人物であることを確認したうえで、海老坂武のこの本を手にとって、こんな風に話すことにしている。もし君がこの本に魅惑され、もう一度パリを訪れる気になったとしたら、そのときは絶対に、パリは君にとって忘れがたい街となるだろう、と。海老坂武が描くパリは、1970年代前半、今から30年近く前のパリである。しかしパリの街としての本質は、時が移っても変わることはない。知的でポレミッシュな、そしてちょっとばかスノッパなパリの街頭スケッチとしては、最良の一冊である。

国際教養

熊谷明泰

朝鮮紀行—英国婦人の見た李朝末期

イザベラ・バード著

時岡敬子訳

講談社学術文庫

イギリスの女性学者が19世紀末に朝鮮半島を旅行した際の紀行文で、当時の朝鮮社会を多岐にわたって観察している。近頃、市中に多く出回っている韓国見聞記物の底の浅さと比較するとき、実に興味深い内容に満ちている。アジアを野蛮視する著者の横柄さや、朝鮮語が全く理解できず、外面からしか朝鮮の人々を眺めていない限界性はあるものの、現代韓国社会や朝鮮の文化を考察する上で、多くのヒントを与えてくれる書物である。

国際教養

柳町裕子

〈性〉のミステリー

伏見憲明著

講談社現代新書

目次を少し紹介しましょう。「誰が『男』らしさ『女』らしさを決めるのか?」「男制・女制以外のジェンダー」「人は何に欲情するのか?」「『異性愛者』というアイデンティティ」「『疑似異性愛』ということ」「同性愛の『原因』」「『女』が『女装』し、『男』が『男装』する時代」「性自認と性転換」「ジェンダーの自己診断」「セクシュアリティの自己診断」etc... もし興味があった方は是非お読み下さい。

よみがえるロシア

五木寛之著

文春文庫

五木寛之とロシアに関係する知識人、そしてちょっと個性的な仕事をしているロシア人との対談集です。対談なので気軽に読めます。ロシアのことばかりでなく、いろいろな「もののみかた」に触れることができるので気軽に読めるにしては知的刺激も十分味わえる本です。

あらゆる信念

ライア・マテラ著

創元推理文庫

毎回ひとつずつおすすめめ（つまり趣味で選んだ）ミステリー小説を紹介しています。今回はとてもマイナーな作品です。主人公は女性弁護士・ウィラ・ジャンソン。実はこの本は彼女を主人公とするシリーズの第3話。この本は少しは注目されましたがこれ以前の本はあまり売れませんでした。売れないとそこらへんの本屋さんにはおいていない。私もこの第3話を読んで気に入ってから第1話と2話を探し出すのが大変でした。是非どなたかにも同じ苦労とその楽しみを……。

英文

フランク・ドールトン

黒い雨

井伏鱒二著

この本で平和や、健康的な環境や、親切や、ユーモアなどの大切を思い出すことができます。

Huckleberry Finn

Mark Twain 著

From the eyes of Huckelberry Finn, we can see the world in a fresh way, remembering the importance of especially human dignity (人間の尊厳).

朝鮮の詩心—「時調（しじょ）」の世界—

著者 波田野節子

尹学準（ルビ・ユンハクチュン） 著

発行 中公

講談社学術文庫

高麗時代にできた朝鮮の定形詩「時調」は、ちょうど日本の和歌が近代短歌としてよみがえり、現代短歌として、いまも若者に詠われているように、時代をこえて愛されてきた伝統詩歌です。

自然を愛でる歌、来ぬ恋人を恨む歌、国を想う歌、そんなさまざまな詩歌を読むと、人間の心が民族や国境をこえてつながっていることが感じられます。

この本には原詩がついているので、朝鮮語を読める人は朝鮮語で「時調」を楽しむことができます。もちろん訳詩も田中明さんの素晴らしい日本語訳。歌を楽しみながら、それらが歌われた背景として歴史を学ぶことができるというおまけつきです。

国際教養

中澤孝之

クレムリン秘密文書は語る

名越健郎著

中公新書

ソ連に保管されていたアルヒーフ（古文書）によって明らかにされた日ソ関係史を詳述したもの。ミステリーを読むような面白さがある。

ロシア国籍日本人の記録

川越史郎著

中公新書

戦後、ソ連軍の捕虜になった著者がソ連市民として有為転変の生活を送った半生記。ペレストロイカまでの時代背景がよく分かる。

国際教養

後藤岩奈

莊子 古代中国の実存主義

福永光司著

福永光司著

中公新書

中公新書

世間一般の常識では、まったく相対立すると考えられている概念・現象（優一劣、強一弱、善一悪、美一醜など）について、それら現象としての対立関係の根底に、一つの不変の共通点を見出して行こうとする。すなわち、あらゆる事物は、この世に生まれ、「存在」し、「生きている」という事実、およびその価値。「諸子百家」と呼ばれる中国古代の哲学学派群の一つ老荘思想(道家思想)について、著者福永氏の理解により述べられたものです。

国際教養

村屋勲夫

著者 アメリカ精神の源 註

著者 伊興本勝

ハロラン 芙美子 著

講談社

中公新書

アメリカ国民は世界でも有数の宗教心の強い人々である。この国は時には暴力的、物質主義的、ダイナミックにも見えるが、それでも世界 No.1 の地位を維持しているのは、内面から宗教心が支えているからである。

日米関係の経済史

原田 泰 著

ちくま新書

ペリー来航で公式な接触を始めた日米両国の友好関係は、日露戦争のときピークに達した。経済的に補完関係にあった両国が、なぜ 1930 年代に入ると対決するようになったか。この本はその点をわかりやすく教えてくれるはずだ。

国際教養

若月章

同盟を考える

著者 若月章

船橋洋一 著

監修 若月章

岩波新書

「同盟」は進化すると著者は言っています。今日の同盟関係の多くはほぼ冷戦時代に構築されたものであるならば、当然、新しい時代に対応したおつき合いと行動が国際社会において各国に求められる筈です。日本の明日を展望する際、示唆に富む最新の良書としてお薦めします。

地球環境報告 II

石 弘之 著

岩波新書

地球環境の悪化が、予想以上に広範にして深く、そして着実に進んでいることを教えてくれる現場レポート。私たちがどれだけ「公」（公共）の意識を欠落させ、これまで「自然」を侮ってきたかを実感させてくれます。私たちができることはまだ充分にあります。ぜひ一読してほしい。

国際教養

水上則子

われら

ザミャーチン著/川端香男里訳

岩波文庫

原題の「Мы（私たち）」は、文法的には「Я（私）」の複数形。でも、自分にとっては、自分という人間は唯一無二のはずで、「私」を複数形にすることは、本当はできないのではないのでしょうか？この小説は、「Мы」と「Я」との戦いの物語かもしれません。自分が自分であることの意味を見失いそうになったら、ぜひ読んでみてください。

世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド

村上春樹著

新潮文庫

交互に描かれる二つの物語—ちょっと上っ調子の「ハードボイルド・ワンダーランド」での冒険物語と、「世界の終わり」での静かな物語との、関係のありそうな、なさそうな進行は絶妙です。私の中では、この「世界の終わり」とザミャーチンの「われら」の世界とが繋がってしまっているので、一緒に挙げさせてもらいました。「われら」を読んでから読むと10倍面白く読める・・・かもしれません。

英文

岡村仁一

八月の光

フォークナー著

新潮文庫

今世紀を代表するアメリカ文学最大の作家、ウィリアム・フォークナーの三大傑作の一つ。最も実験的な要素が少ないと言われているが、それだけにフォークナー入門書としては最適。主人公の一人、ジョー・クリスマスと共に夜の町をさまよい、リーナ・グローヴと共に涙しながら読み進むうちに、必ずやフォークナー文学の虜となること請け合いである。

国際教養

木佐木哲朗

日本社会の歴史 上・中・下

菅原田の
論文志>さ

網野義彦著
岩波新書

歴史といっても、通史ではなく日本列島の社会史であり、人々の多様な歴史の中の姿が描き出されている。稲作中心の農業が営まれる孤立した島国という「ひとつの日本」のイメージから脱し、非農業民や女性の担った役割にも光を当て、「いくつもの日本」を描く歴史叙述の転換の書となっている。

極北のインディアン

原ひろ子著
中公文庫

著者の若いころ（1960年代初め）の、カナダ北西部の冷帯林に住む狩猟民社会での、人類学的フィールドワークの書である。著者を通して、ヘヤー・インディアンを身近な存在として相対化することができ、また人類学にとってのフィールドワークとは何かを教えてくれる。そして、性役割分業論についても示唆的な書である。

生活福祉

姉齒暁

私の「漱石」と「龍之介」

内田百閒著

ちくま文庫

夏目漱石の弟子であり、芥川龍之介の友人であり、みずからも多くの弟子を持つ小説家であり随筆家でもある内田百閒の随筆の中から漱石と芥川に関するものをまとめたものである。下戸の漱石、ゴールデンバットの愛用者だった芥川、どの話もふたりの、そして書き手である内田自身の人間が見事に描き出されていて、純粋で真摯な人間社会の探究者だった三人のひとりとなりがほんわかとした気分させる。今は失われてしまった東京近辺の情緒豊かな町並みも含めてこんな随筆をいちどは目にしてもう一度「我が輩はネコである」や「羅生門」を読み返してもらいたい。

荻原守衛 忘れえぬ芸術家 上下

林 文雄著

新日本新書

ああ、これまでこんなにも心うたれる彫刻を見たことが有るだろうか。その力に溢れた彼の彫刻に魅せられて穂高にある彼の美術館に幾度となく足を運んだ私が心からお薦めする本だ。若くして、人民とともに時代に苦悩しつつ創りあげた「労働者」像、一方で人妻への愛情に苦悩し、絶望の中に有る女性像を表現した「デスベア」など、優れた作品を残し、32歳の若さで、新宿中村屋（カレーと肉マンで有名な）で咯血して二日後に他界した荻原守衛。彼の人生と芸術を、中村屋の主人の美しい人妻、相馬黒光との愛の葛藤を分析しつつ迎える読みやすい芸術論。

ゲルニカ物語 —ピカソと現代史—

荒井 信一著

岩波新書

横 7メートル以上、縦 3メートルあまりの巨大な 20 世紀最大の政治的絵画といわれるピカソのゲルニカ、これが初めて展示された 1937 年のパリ万博からはじまって、なぜゲルニカが描かれるに至ったか、ピカソやマチスなど、この時代の芸術家達が何を訴えかけようとしていたか、その時代背景とともに、時代ごとにこのゲルニカが巻き起こした論争の様子が再現される。そのメッセージは時をこえて、私達に迫ってくるに違いない。この絵を見たことの有る人もない人も、是非読んでみてもらいたい本である。

英文

福嶋鞆子

アンネの日記 完全版

深町真理子訳

文春文庫

一昨年アムステルダムに行ったとき、アンネの隠れ家に行った。日本に帰ってくると、インドネシアで日本軍のために収容所に入れられたオランダ人の少女の記録「ソーニャの日記」をNHKで放送していた。インドネシアはオランダの植民地だったので、オランダ人が生活していたのである。戦争中にはたくさんさんのアンネやソーニャがいたことをあらためて感じた。戦時の非人間的な行為について知るたびにやりきれない気持ちになるが、そういう中で人間的に行動した人の記録を読むと、人間も捨てたものではないと思う。

なお、アンネの父親が『アンネの日記』を刊行したとき、アンネの母親への感情など削除された部分があった。『アンネの日記 完全版』は削除された部分を補ったまさに完全版である。

アンネ・フランクの記憶

小川洋子著

角川文庫

『アンネ・フランクの記憶』は、少女時代に『アンネの日記』を読んで作家をこころざした小川洋子がアンネの足跡をたどり、関係者を訪れたときの記録である。今も生きている人たちの口から当時の生活が語られる。また、アウシュビッツ訪問の記録も衝撃的である。『アンネの日記』をかつて読んだことのある人もない人も、ぜひ一度読んでほしいと思う。

生活科学

本間善夫

われ笑う、ゆえにわれあり

土屋賢二著

文春文庫

柴門ふみさんの恩師でもある稀代の哲学者の崇高な哲学入門書。土屋氏のシリーズは一家でファンです。先日東京の地下鉄車内でこの本を堂々と読んでいる若い女性がいて、彼女のセンスの良さがしのばれました。

エコロジー的思想のすすめ

立花隆著

中公文庫

著者が30歳の時に書いた事実上の処女作。現代の怪物・立花隆の出発点は、環境問題であった！

不穏の世紀から

辺見庸著

角川文庫

反逆する風景

辺見庸著

講談社文庫

“湿った地下茎”、“不安の球根”、…。見えないものにこそ
真実がある。

ゾウの時間 ネズミの時間

本川達雄著

中公新書

著者は歌う生物学者。理系書としては珍しい大ベストセラー。
生物の体は自然環境のフィードバックなんですね。

金属は人体になぜ必要か

梶井弘著

講談社ブルーバックス

エッ！ ヒ素も！？ 化学の基礎や活性酸素のことも学べま
す。

物理定数とは何か

西條敏美著

講談社ブルーバックス

万有引力定数、重力加速度、音速、光速、アボガドロ定数、プランク定数、…。自然を牛耳る不思議な数値の発見と変遷。

南の島のティオ

池澤夏樹著

文春文庫

今もどこかにある子どもの世界のものがたり。著者は、その昔卒論で取り上げられた作家 No.1 だったこともある福永武彦のご子息で理系大学中退。二代にわたって瑞々しい文章を読ませてもらえるのは読者冥利に尽きます。

幼児教育

原野明子

イソップ寓話集

山本光雄訳

岩波文庫

「北風と太陽」や「ウサギとカメ」など誰もが幼い頃触れたことのあるお話が収められています。その数なんと358。「私、本苦手なお」なんて思っている人にも読みやすいオススメの一冊です。私は小さい頃からこれらの話を感心しながら読んでいたのですが、本書の解説を読んで愕然としました。「…この『イソップ寓話集』のうちに見られる道徳的教訓はギリシャ一般の日常的道徳的教訓であり、処世術である。その主眼とするところは、如何にすれば人は安穩に幸福にこの世を過ごせるかということである。そのためには…運命を諦めよとか、骨惜しみするとか、あるいはさらに、長い物には巻かれよとか…までも説くのである。アイソポスの寓話をもって「範例による哲学」と称した者もいるが、それはソクラテス…などの道徳観とは大いに異なっている。悪く言えばやはり奴隷の道徳である。… (p.272)」ただ読んで感心するだけでなく、このイソップ寓話集が、どのような時代に日本に入って来、それが私達の考え方の形成にどう影響しているのかを考えながら読むのも面白いと思います。

江戸の親子～父親が子どもを育てた時代～

太田素子著

中公新書

土佐藩の下級武士楠瀬大枝の日記をもとに、江戸時代の子育てについて書かれています。本書の第5章では、中世、近世の子育て書の歴史とそこに見られる親子関係がわかりやすくまとめてあり、現代の親子関係のルーツを知る面白い手がかりを拜見できそうです。

国際教養

高久由美

巻一 文字の文化史

著者 本編

藤枝晃著

岩波書店

(同時代ライブラリーNo. 83)

私たちの生活のなかで、ことばと文字が最もベーシックな文化であることは、だれもが知っています。だから、日本人を文化的に定義すれば、それは日本語の話者であり、日本文字（漢字とカナ）の使用者だ、ということになります。それなのに、その文字（＝漢字）のルーツを識る人、学ぼうとする人はどれだけいるでしょう？自分たちの文化の源に冷淡なのも日本人のひとつの特徴なようです。

この本の面白さは、文字がどのように変化していったのか、というよりもむしろ、文字をめぐる様々な社会的・文化的事柄の歴史を、やさしく、網羅的に解説してくれているところにあります。前二千年紀の甲骨文字や青銅器銘文の世界から、近代の活版印刷の話まで、漢字をめぐる文化史は、更にひろがっていく知的興奮の世界へとあなた方（私も含めて）をいざなってくれることでしょう。

生活科学

坂口淳

データ分析はじめの一步

清水 誠著

講談社ブルーバックス

私たちの周りには数値情報が溢れています。それを分析することは、自分の将来をうらなう上で重要なことです。

分析といっても怖がらないでください。算数で十分です。社会に出てからコンピュータで仕事をする人にとって、一度読んでみる価値があります。

英文

石栗彩子

ドストエフスキーの詩学

ミハイル・バフチン著

ちくま文庫

本書はドストエフスキーの評論というだけではなく、バフチンの思想の核心をなすものでもあります。ドストエフスキーの声とバフチンの声が時代を超えて響きあいつつ、知の高みへと導くスリリングな展開を楽しんで下さい。

反復

キルケゴール著

岩波文庫

恋愛小説のような体裁をとりながら、実はバフチンや柄谷にも通じる思想書です。分量も少な目で読みやすいので、一度試してみるとおいしいかも。

英文

大橋儀隆

歴史の暮方

林達夫著

中央文庫

著者は、「貧しきエピキュリアン」の「心ならずの声」と謙遜されるが、真の理性の持ち主であるヒューマンストの時代の制約を超えた心の叫びである。理性、正義、善の仮面をつけて、実はそれらを見捨て踏みつけて行く狂気の様子を透徹した論理でえがきだしている。

これら殆どが昭和 15~16 年頃書かれたものであることを知れば、びっくりされるでしょう。

王朝物語

中村真一郎著

新潮文庫

物凄い古今東西の文学知識の持主の著者が、源氏物語を頂点とする王朝物語の魅力、特殊性、共通性を世界文学の中に求めて、「二十一世紀の小説の可能性」を探った、まさしく「新しい知的冒険」である素晴らしい本です。読了後、きっと読みたい本が数冊見つかると思います。

食物栄養

太田優子

美味礼賛（上・下）

ブリア・サヴァラン著

岩波文庫

「どんなものを食べているか言ってみたまえ。君がどんな人であるかを言いあててみせよう。」迷いの多い学生時代に、進むべき道を模索し始める契機となった書物の中でも、とりわけ大切な何冊かのうちの1冊です。と同時に、私と2人の恩師を結びつけてくれた(?) キューピットの役割も果たした、ありがたい本でもあります。

「だれかを食事に招くということは、その人が自分の家にいる間じゅうその幸福を引き受けるということである。」—含蓄のある、味わい深い言葉が、きらめいています。興味のある方は、雑誌『食の科学』連載中の「ブリア＝サヴァランの『美味学』」（川端晶子著）もどうぞ！

複合汚染

有吉佐和子著

新潮文庫

大学2年から3年までの長い春休みの読書三昧の中で、とくに胸ときめかせて読んだ懐かしい一冊です。1984年10月から8ヶ月半、朝日新聞小説欄に連載されたものが反響を呼び、文庫版にもなりました。

読み返すと、初めて出会うこと・もの・ひと（健康権・幸福権、ill-health, レイチエル・カーソン etc）の多い、当時の私には極めて刺激的な本であったことに、改めて気づかされます。話題の青島都知事や菅氏も登場し、思わず微笑も…有吉氏との対話における厚生省食品課長の言葉が、今も印象的です。「科学よりも哲学の時代が来たのだと私は思うのですよ。科学的に判断するよりも哲学的に判断すべき事柄が多くなりましたからですね。」



1998年度卒業記念

どこでもドアのかぎ 3

～教職員がすすめる一冊の本～

(文庫・新書限定バージョン)

県短生協 教職員委員会編

1999年3月19日発行

